

理学部

I	教育の水準	教育 9-2
II	質の向上度	教育 9-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 教育委員会・常任委員会で学部の課題や問題点を取り上げ、教員の教育力の向上を図るためのファカルティ・デベロップメント（FD）を実施している。また、スタッフ・ディベロップメント（SD）として、教務系事務職員を対象とした教育法規等の勉強会を年4回開催し、専門的知識と教務的支援の向上を図っている。
- 平成25年度入学者選抜試験から、センター試験の結果を個別入学者選抜試験に反映させるよう、学力のバランスに配慮した選抜方法の改善を実施している。また、より多様な学生の選抜を目指し、平成27年度から特色入試を導入している。
- 平成25年度から機関別認証評価で指摘を受けた課題に対応し、ディプロマ・ポリシー（DP）の改訂、コースツリーの作成、授業アンケート、シラバスの標準モデルの作成とそのチェック体制の整備等に取り組んでいる。
- 単位修得状況は教務委員会等で把握し、教育成果についての検討も随時行っており、また、学生の学習達成状況は、1、2年次は少人数担任制の担任教員が、3年次は各系の教員が、4年次は卒業研究科目の指導教員が把握している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 「理学科のみの1学科制」に基づく「緩やかな専門化」という教育方針に基づき、理学の全分野を網羅する5種類の系を設け、基礎教育から専門教育までの課程を体系化している。また、学部最終段階では最先端の学術研究に触れられるよう卒業研究科目を必修化している。
- 国際通用性のある教育課程の編成に向け、国際高等教育院と協力して平成25年度に入学者全員に対しTOEFL-ITPを実施し、その後、全学へ展開している。
- 一般教育の語学科目に加えて専門英語科目「科学英語（理学）」、「物理の英語」を開講し、英語文献読解や研究発表による英語能力の向上を図るとともに、卒業研究科目に英語文献講読を取り入れている。また、平成27年度から6名の外国人教員による、英語による理学関係科目を新たに開講している。

- 履修科目には自由度を設け、自学・自習を促すとともに、学生が自由にテキストを選択して輪講等を行う自主ゼミを奨励しており、平成 26 年度は 211 件を実施している。
- 平成 26 年度から web 指導記録システム「Student Profile」を導入し、教員による面談の内容や助言を継続的に記録し、学生の様々な就学上の悩みや相談への対応に取り組んでいる。

以上の状況等及び理学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点 2－1 「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 24 年度に 3 年次生が太陽型星のスーパーフレアの第一発見者となり、国際学術誌に第二著者として掲載され、総長賞を受賞している。

観点 2－2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 27 年度の卒業生 307 名のうち 259 名（84%）は大学院修士課程に進学し、そのうち理学研究科への進学者は 206 名（67%）となっている。
- 大学院進学者を含め、中学校・高等学校の理科や数学の教員免許を取得する学生は、毎年延べ 40 名程度となっている。また、教員志望者は、大学院を経て近畿地区の公立・私立高等学校の教員となる者が多く、近畿地区の理数科教育への貢献がうかがえる。
- 数理学系では、アクチュアリー養成を視野に入れた保険数学の講義・演習を行っており、在学中からアクチュアリー試験の合格者を輩出している。

以上の状況等及び理学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 26 年度から在学期間を通して組織的・継続的に面談内容を記録して個別指導に活用する、web 指導記録システム「Student Profile」を導入している。
- 平成 25 年度に国際高等教育院と協力して、入学者全員に対する TOEFL-ITP を実施している。また、1、2 年次の一般教育の語学科目に加えて「科学英語（理学）」、「物理の英語」等の専門英語教育を行っている。さらに、平成 27 年度からは 6 名の外国人教員による、英語による理学関係講義を新たに開講している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度に合成生物学の国際大会である iGeM2010 において、理学部チームが金賞を受賞しており、また、平成 24 年度には、国際学術誌の第二著者として研究成果が掲載されるなど、学術に関して優れた活動を行い表彰を受けた学生がいる。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。